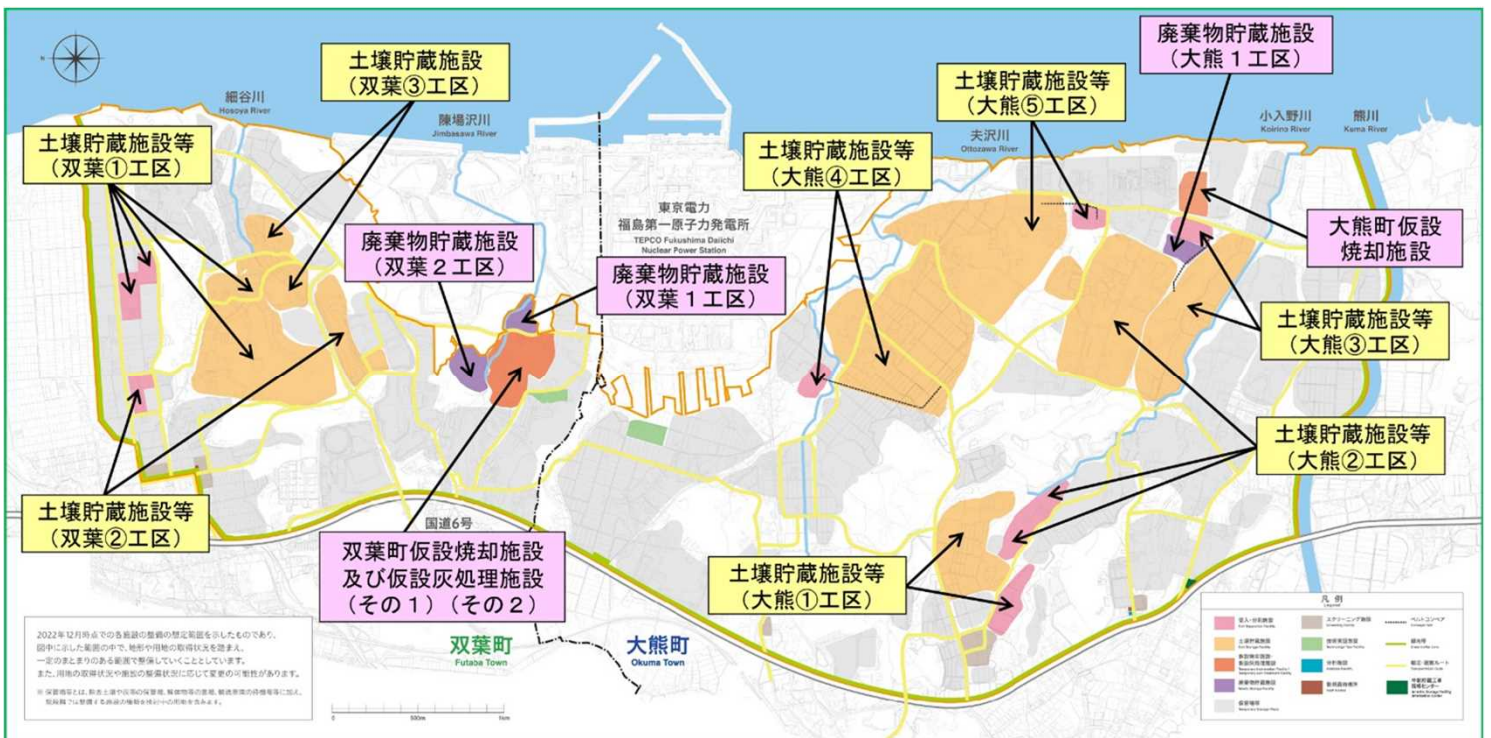


# 中間貯蔵施設の整備の現状

## 概要

- 放射性物質汚染対処特措法等に基づき、福島県内の除染に伴い発生した放射性物質を含む土壌・廃棄物及び福島県内に保管されている10万ベクレル/kgを超える焼却灰等を最終処分するまでの間、安全に集中的に管理・保管する施設として中間貯蔵施設を整備しています。
- 2016年11月に、大熊町・双葉町において、受入・分別施設、土壌貯蔵施設の整備に着手しました。
- 2017年6月に除去土壌等の分別処理を開始し、分別した土壌について、大熊町では2017年10月、双葉町では2017年12月から土壌貯蔵施設への貯蔵を開始しました。
- 2020年3月に、中間貯蔵施設における除去土壌と廃棄物の処理・貯蔵の全工程で運転を開始しました。



2022年12月時点での各施設の整備の想定範囲を示したものであり、図中に示した範囲の中で、地形や用地の取得状況を踏まえ、一定のまとまりのある範囲で整備していくこととしています。また、用地の取得状況や建設の進捗状況に応じて変更の可能性がります。  
 ※ 仮設焼却炉とは、除去土壌や除染の汚染土、廃棄物の焼却、焼却灰等の処理等に用いられる施設です。

・除去土壌の分別処理を行い、9月末時点で、約1177.3万 $\text{m}^3$ （輸送量ベース）の土壌を土壌貯蔵施設に貯蔵しました。

工区	大熊①工区	大熊②工区	大熊③工区	大熊④工区	大熊⑤工区	双葉①工区	双葉②工区	双葉③工区
受入・分別施設数 <sup>※1</sup>	1	2	1	1	1	2	1	-
貯蔵容量 <sup>※2</sup>	約100万 $\text{m}^3$	約330万 $\text{m}^3$	約210万 $\text{m}^3$	約160万 $\text{m}^3$	約200万 $\text{m}^3$	約140万 $\text{m}^3$	約90万 $\text{m}^3$	約80万 $\text{m}^3$
貯蔵量 <sup>※2</sup>	106.7万 $\text{m}^3$	292.1万 $\text{m}^3$	148.8万 $\text{m}^3$	157.2万 $\text{m}^3$	213.0万 $\text{m}^3$	100.8万 $\text{m}^3$	92.5万 $\text{m}^3$	66.2万 $\text{m}^3$
着工	2017年9月着工	2016年11月着工	2017年11月着工	2018年10月着工	2018年10月着工	2016年11月着工	2018年1月着工	2018年9月着工
受入・分別施設スケジュール	2018年7月 運転開始 2022年12月 解体完了	2017年8月 2018年7月 運転開始 2023年4月 解体開始 <sup>※3</sup>	2018年7月 運転開始 2023年6月 解体開始	2019年8月 運転開始 2023年4月 解体開始	2019年8月 運転開始 2023年6月 解体開始	2017年6月 2018年9月 運転開始 2022年4月 解体開始 <sup>※3</sup>	2019年2月 運転開始 2022年10月 解体完了	(なし)
土壌貯蔵施設スケジュール	2018年7月 運転開始 2022年8月 貯蔵完了	2017年10月 運転開始	2018年10月 運転開始	2020年3月 運転開始	2019年4月 運転開始	2017年12月 運転開始	2019年5月 運転開始 2022年4月 貯蔵完了	2019年12月 運転開始
受注者	鹿島JV	清水JV	大林JV	清水JV	大林JV	前田JV	大成JV	安藤・間JV

大熊①工区



大熊②工区



大熊③工区



大熊④工区



大熊⑤工区



双葉①工区



双葉②工区



双葉③工区

(受入・分別施設は整備していない)



左の写真が受入・分別施設、右の写真が土壌貯蔵施設

※1 発注時の1施設当たりの処理能力は140t/時。双葉③工区は、受入・分別施設を整備していません。

※2 貯蔵容量及び貯蔵量は、仮置場等からの輸送量ベース（1袋 = 1 $\text{m}^3$ で換算）。貯蔵容量は、用地確保状況等により変更となる可能性があります。

※3 2施設のうち1施設について解体完了。

## 仮設焼却施設及び仮設灰処理施設の整備状況

2023年9月30日時点

• 仮設焼却施設及び仮設灰処理施設で処理を行っています。

施設	大熊町	双葉町（その1）	双葉町（その2）
規模	仮設焼却施設： 200 t / 日 × 1 炉 （ストーカ炉）	・ 仮設焼却施設： 150 t / 日 × 1 炉 （シャフト炉） ・ 仮設灰処理施設： 75 t / 日 × 2 炉 （表面熔融炉）	・ 仮設焼却施設： 200 t / 日 × 1 炉 （ストーカ炉） ・ 仮設灰処理施設： 75 t / 日 × 2 炉 （コークスベット式灰熔融炉）
敷地面積	約5.0ha	約5.7ha	約6.8ha
着工	2016年7月伐採・造成開始	2018年6月伐採・造成開始	2018年6月伐採・造成開始
建設工事スケジュール	2016年12月開始	2019年1月開始	2019年1月開始
処理スケジュール	2018年2月処理開始	2020年3月処理開始	2020年3月処理開始
受注者	三菱・鹿島JV	新日鉄・クボタ・大林組・TPT JV	JFE・前田JV
外観			

## 廃棄物貯蔵施設の整備状況

2023年9月30日時点

• 9月末時点で、灰処理ばいじんを封入した鋼製角形容器20,728個を廃棄物貯蔵施設に貯蔵しました。

工区	大熊1工区	双葉1工区	双葉2工区
主な建築構造	鉄骨鉄筋コンクリート造（2棟）	鉄骨鉄筋コンクリート造（1棟）	鉄骨鉄筋コンクリート造（1棟）
貯蔵容量※	29,280個	14,678個	30,028個
貯蔵量※	8,600個	12,128個	—
敷地面積	約2.4ha	約2.2ha	約3.7ha
着工	2018年7月 造成開始 2018年12月 建築開始	2018年6月 造成開始 2018年11月 建築開始	2019年12月 造成開始 2019年12月 建築開始
貯蔵スケジュール	2020年4月貯蔵開始	2020年3月貯蔵開始	双葉1工区貯蔵完了後予定
施設整備受注者	鹿島建設	大林組	鹿島建設
定置・維持管理受注者	鹿島建設		
外観			

※ 貯蔵容量及び貯蔵量は、鋼製角形容器（内寸 約1.3m(幅)×約1.3m(奥行)×約1.1m(高さ)）の個数。